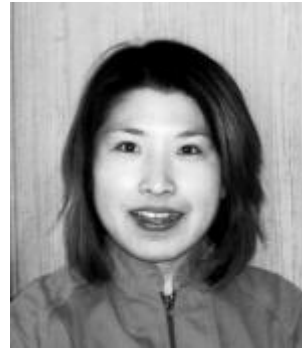




静岡県畜産経営環境技術センター
中村 美穂



○職場の紹介

当試験場においては、養豚研究、養鶏研究、経営環境及び普及課の4つの部門で組織され、活力ある中小家畜経営を支援する技術開発を目指し、日々研究に取り組んでいます。

養豚部門では、昭和62年から全国で初めてSPF環境での系統造成を開始し、現在これらの系統豚を利用した高品質な肉豚生産を行うため、生産・販売の認証制度を整備し、消費者に喜ばれる安心・安全な静岡型銘柄豚の普及推進を行っています。また、養鶏部門でも昭和59年度よりおいしい鶏肉づくりに着手し、平成2年度に地域特産鶏「駿河若シャモ」を造成しました。

経営環境部門では環境保全技術の試験研究のほかに畜産環境技術指導センターを兼務し、中小家畜農家に対する技術指導も併せて行っています。さらに、当场では平成12年6月に、地方自治体の農業関係試験研究機関として初めてISO14001の認証を取得し、環境に配慮した生産活動を行っています。そして、県下の農業生産法人等への環境マネジメントシステムの導入促進を図り、環境に調和した持続性の高い農業の支援活動を行っています。

○担当分野の紹介

経営環境部門で現在取り組んでいる課題は、主に畜舎排水処理及び悪臭問題対策に関することです。畜産経営者にとって、これら2つの環境問題をクリアすることは、今後の経営を続けていく上で、避けて通れない非常に大きな問題の一つです。

畜舎排水処理に関しては、近年のバイオマスエネルギーの有効利用に関する研究開発の関心の高さを受けて、当场の既設のメタン発酵装置にメタン菌保持のための充填剤を投入し、余剰ガスの回収率の向上について検討しています。さらに、これを畜舎排水処理の過程で出る濃縮沈澱汚水の負荷軽減に応用し、より効率的な排水処理ができるよう研究を行っています。

また、悪臭問題対策に関しては、堆肥化途中で発生するアンモニアに直接酸性水を吹き付ける「スポット脱臭装置」を開発し、効率的脱臭技術の検討を行っています。

○現実の難しさ

現在の配属先に着任してから、はや1年が過ぎようとしています。環境保全問題の難しさについては、身をもって痛感する毎日です。と言うのも、当场で飼育されている家畜の糞尿処理は経営環境部門で担当しており、浄化槽や堆肥舎を管理する際には、水質の悪化や臭気の拡散には大変気を使います。しかし、現場を実際に管理してこそ、今農家で求められているものは何であるのか、また新しく開発すべき技術が何であるのかが見えてくるのです。これからの畜産の未来が明るく輝けるよう、新しい技術の開発及び普及に一層力を入れて取り組み、自分の役割を果たした

いと切に思います。

○今後の抱負

現在、畜産農家を取り巻く環境は、新たな法律が加わり、更に厳しい情勢が感じとれます。特に、糞尿処理に関しては、「家畜排せつ物法」が施行され、家畜糞尿の野積み・素掘りを早急に解消するべく取り組みが開始されました。今回の法の整備について「畜産農家を殺すのか」という声も聴かれますが、むしろ「畜産農家の生き残りを賭けた」対策なのだと理解する必要があると思います。というのも、この家畜排せつ物法以上に厳しいものが、今後畜産サイド以外の省庁において検討されることが予想されるからです。従って、畜産サイドが先手を打ったと理解し、積極的に環境対策に取り組み生き残りを賭けなければなりません。これらの問題は、農家の方たちの努力だけでは解決することができない側面を非常に多く持っています。そのためにも、畜産経営を圧迫しない低コストで尚かつ持続的に行えるような簡易な環境保全技術について研究を重ね、農家の方々にその成果を還元できればと思います。